

ソーシャルメディアを用いた日本語独習に関する研究 : 中国語母語話者向けの実践を通して

董, 欣

<https://hdl.handle.net/2324/4496120>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (学術), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名 : 董欣

論 文 名 : ソーシャルメディアを用いた日本語独習に関する研究
-中国語母語話者向けの実践を通して-

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

インターネット技術の発展や新型コロナウイルスの流行によるオンライン教育・学習の加速に伴い、高等教育機関及び語学教育機関に属さず、独学でオンラインによる日本語学習を行う者も多数存在していると考えられる。また、近年、ソーシャルメディアの急速な発展や様々な領域での活用に伴い、日本語教育に関する研究領域においてもソーシャルメディアを用いた実践研究が増えつつある。しかしながら、ソーシャルメディアを用いた日本語教育の実践の多くは大学や語学学校等の教育機関内で行われたものであり、高等教育機関及び語学教育機関に属さない独習者を対象とした実践研究はまだ少ないのが現状である。

先行研究では、日本語独習者の存在及びソーシャルメディアを活用したオンライン日本語独習コミュニティの有効性が明らかにされたが、ソーシャルメディアを活用して日本語を学習する独習者に対して、オンライン日本語独習コミュニティのどのような機能が教育効果に影響を与えているのか、また教育効果を高めるためには、どのようなオンライン日本語独習コミュニティを構築すれば良いのかの設計指針はまだ明らかにされていない。そこで、ソーシャルメディアを活用したオンライン日本語独習モデルをどのように構築するかが、日本語教育の共通した課題となっている。また、中国本土のインターネット制限のため、日本語の知識や日本の情報の収集に支障があることは中国本土在住の日本語学習者にとっての課題である。そこで、本研究では、新型コロナウイルスの影響の背景の下で、世界最大規模となった中国のオンライン教育領域において、中国本土在住の中国語母語話者である日本語独習者に向けて、オンライン日本語独習モデルを提案するものである。

これらの背景を踏まえ、本研究では、教育機関外での日本語独習に対してソーシャルメディアはどのような可能性を持つのかという観点から、「日本語独習 LAB」の実践を通して、実践①の WeChat の公式アカウントページとグループの実践と実践②の改善後のグループの活動とライブ活動における「ネットワーク構造」の変化が、「日本語独習 LAB」内の相互作用にもたらす変化を通して、オンライン学習コミュニティにおける

日本語独習の特徴とオンライン学習コミュニティはどのようなものであるかを明らかにし、ソーシャルメディアを用いたオンライン日本語独習モデルを提供することを目的とし、以下の2点を研究課題に設定した。

- 1) 「独習者」、「独習内容」、「独習形式」という3つの側面から見た日本語独習の特徴は何か
- 2) 日本語独習の特徴に基づいたオンライン日本語独習モデルとはどのようなものか

上記、研究課題の解明にあたり、研究方法としては、本研究では質的アプローチと量的アプローチの双方を用いて、データ収集と分析を行った。質的調査では、M-GTA(修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ)を用いてデータ収集や分析を行い、実際は「グループ」と「ライブ動画」のメディア形式を組み合わせ、参加者(8人)に対して半構造化インタビュー・参与観察を行い、オンライン日本語独習コミュニティ内の各要素の関連性の分析ツールである「ソーシャルキャピタル理論」に従って分析を行い、日本語独習の特徴を抽出した。量的な調査では、半構造化インタビューの結果に基づいて参加者(138人)に、選択肢と自由記述双方の項目を設定したアンケート調査を実施し、「日本語独習 LAB」内の活動及び相互作用などを観察することで、ソーシャルキャピタル理論に従いオンライン日本語独習モデルを抽出した。

半構造化インタビュー・参与観察及びアンケート調査のデータを統計分析した結果、課題1「日本語独習の特徴は何か」について、学習志向の社交動機、共有、参与、信頼・認知、ネットワークという5つの側面を持つソーシャル性という特徴が抽出された。課題2「日本語独習オンライン日本語独習モデルとはどのようなものか」については、ソーシャルメディアを活用することを前提とした場合、「ソーシャルメディア」、「独習者」、「教師・アシスタント」、「コンテンツ」といった各要素が相互に作用し合うことにより、「学習機能」と「社交機能」双方の機能が発揮されることがわかった。

以上のように、本研究は従来の研究で指摘されているように、日本語独習に対し、オンライン日本語独習コミュニティが「学習機能」を有するのみならず、「社交機能」をも有することを新たに明らかにした。これらの点は、オンライン日本語独習コミュニティが学習及び異文化交流の両面を促す可能性を示唆しており、オンライン日本語独習モデルの設計指針に対する一助になると考えられる。